

宮古エリア支援プロジェクト ニュースレター 特別号



交流ぶらざ「いっぽいっぽい・山田」2012年6月オープン@岩手県山田町

はじめに…

2014年3月で東日本大震災から3年が経ちました。当プロジェクトでは、OMFの岩手被災地支援活動に連携して、これまでに25便のチーム派遣をしてきました。現地では、仮設住宅への訪問「移動カフェ」の働きと共に、2012年6月にオープンした交流プラザ「いっぽいっぽい・山田」が、津波・火災ですべてを流された多くの方々の集う居場所として用いられています。また同時期に開設した「いっぽいっぽい・釜石・大槌ボランティアセンター」を拠点に、仮設訪問「お茶っこ」や、子どものための「放課後のプログラム」が行われ、これら支援の働きを通して、震災前は国内で宣教が最も困難とされていた岩手三陸沿岸部に福音の種が蒔かれ、彼の地でキリストを求め、キリストに出会う方々が起こされています。

OMF 支援活動終了

2011年6月より開始したOMF被災地支援活動は、2014年5月を持って終了します。この働きは、被災地支援のために世界各国から捧げられた資金によって、期限付きで行われた活動でした。本来、日本宣教のために遣わされたOMF宣教師の諸先生方が、被災地支援のためにいち早く立ち上がり、これまで献身的な働きをしてくださったことに心から感謝します。



マギンティ宣教師ご夫妻



現地スタッフのみなさん

継続の道は…？

もし、OMFの働きを引き継ぐ受け皿がないならば、働きは途絶えてしまいます。これまで蒔かれた種、芽生えた信仰の芽はどうなってしまうのでしょうか？当プロジェクトは、働きの継続の方法を祈り、暗中模索する中で、日本の諸教会が受け皿となるための、働きの法人化（一般社団法人「いっぽいっぽい・岩手」設立）を検討・準備することとなりました。働きを継続するためには、運営するための資金、スタッフの確保と（全時間奉仕）その生活費等が不可欠です。これらが満たされなければ、継続はありません。

車の両輪 一支援と伝道一

過去のこの地域における宣教は、開拓と撤退を繰り返す苛酷なものでした。しかしながら、震災後のキリスト者による「支援」を通して、堅く閉ざされていた開拓への門が、今は開いているのです。そのことを受けて、現在JECA全国では、福岡開拓に次ぐ「岩手開拓」を検討しています。（2014年6月全国総会で決議）上記の法人設立は、この宣教の働きと連携する車の両輪としての支援活動のためです。例えばキリストや弟子たちも、宣教と共に、病を癒し、奇跡をおこなって人々の必要に応えました。「支援と伝道」は本来ひとつであると改めて覚えさせられております。この働きを継続するためには、皆様のご理解とお祈り、そして経済的な支援が必要です。現状を共有し、お祈りに覚えていただきたく、ご報告する次第です。

一詳しくは最終面をご覧ください一

2年4ヵ月のお働きに感謝 2011年10月から2014年1月まで、OMF 現地スタッフとしての労を担ってくださった本間英隆・早苗ご夫妻（七飯福音キリスト教会）が働きを終えて北海道に戻られました。それまでの生活を置いて被災地に住み、人々の悲しみにキリストと共に寄り添い続けて下さったこれまでの忠実なお働きに心から感謝致します。お二人の今後の生活のためにもお祈りください。（この証は「3・11 いわて教会ネットワーク」ニュースレター vol.23 よりの転載した記事です。）

「神様が始められたお働き」

いっぼいっぼ・山田
元コーディネーター
本間早苗姉



「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」
ピリピ1：6

救い主イエス様のお名前を賛美します。

2011年10月、住居が見つからないまま宮古に着任してから2年4か月。荷物といっしょに多くの恵みを携えて今、私たちは北海道に向かうフェリーの中です。

尋常ではない早さで変化していく働きの中を、ただただ駆けつけて来たような感があります。いつも先のことかわからない手探り状態の日々、問題もたびたびおきました。このような毎日に否定的な感情はさほどなく、むしろ、いつも主にある期待感がありました。感謝です。

2012年6月に、交流ぶらざ いっぼいっぼ・山田（以下、いっぼ）がオープンして以来、日を追うごとに、来られる方々との距離が近くなっていることを実感しています。

仮設でのカフェに来られる方は、高齢の女性が多く、メンバーが固定している傾向がありましたが、いっぼを利用する方々の多様さにはびっくりします。赤ちゃん連れのお母さん、学校帰りの小学生、部活帰



朝のいっぼに集まる常連さんたち

りの中・高校生、パート帰りのおばさんたち、元漁師、現役漁師の男性たち、サークル帰りの女性のみなさん、町内会の役員のみなさん。様々な方が、同じ空間にいっしょにいて、思い思いに、そして、それとなく互いに配慮をしながら時間を過ごしています。日常の回復の遅さに不安や苛立ちを感じながらも、忍耐している様子が見えます。誰かといっしょにいるみなさんは楽しそうではありますが、時間の経過と共に、私たちスタッフともっと個人的な深い話をしたい方もいることがわかってきました。

生活のすべてが流され、燃やされてしまった被災者、という理解のもとで私たちは被災の故の苦しみ、痛み、心に心を寄せてきましたが、みなさんからは、すでに持っていた震災以前からの生きづらさや問題を聞くことも多くなっています。

抱えている問題の解決をスタッフに要求してくるわけではありません。とにかくこちらが聞き続けていると、相手は自ずと自分自身が答えを持っていることに気付き始めます。

でも、それをどう実践していくべきか確信が持てないのです。全部を自分の力と思いでしなければならぬから、結局は行き詰ってしまうのです。誰かからの共感、励ましが必要とされます。

私たちが岩手にいる意味は、文字通り、支援のためですが、たくさんの支援団体がある中で、クリスチャンが支援をする意味はどこにあるのでしょうか。

人がすること、人がしてもらうことの限界を思います。その限界を超えた先にある、無くなることのない希望へのとびら、神様との関係を回復することによって得られるたましいの救いの道を提示することはクリスチャンの特権であることを、ここに来て強く思っています。責任という言い方もできるかもしれませんが、むしろそのことができるのは恵みと思うのです。

いっぽに置いてある本のタイトル「いのちより大切なもの」を見て、思いを巡らした上で、私たちに問いかけてくる方がいます。掛けてある絵や写真に印刷されているみことばを読み、いいことばだね、と言う方がいます。愛するものよ、と語りかけるみことばを声を出して読んでいる小学生に、誰が知っているかわかる？誰のことを愛していると言っているかわかる？と問いかけた後、〇〇ちゃんは神様に愛されているんだよ、と伝えることができます。

トイレに掛けてある「あしあと」を読んだことがきっかけで、聖書を読むようになった方がいます。いただいたピアノをスタッフが弾き、みなさんと賛美する時、歌詞の意味を説明することで聖書の神様について伝えることができます。クリスマスにイエス様のご降誕をお伝えすると、クリスマスの本当の意味を初めて知ってよかった、と喜ぶ人がいます。日曜日はどこの教会に行くの？礼拝って何をすると聞かれますから、ていねいにお答えします。お誘いした方が、礼拝に出席されることもあります。

死にたい、と言って自分の状況を切々と訴える男性、私なんかいない方がいい、と言って泣きじゃくる女性、震災でなぜ私が生き残ったのか、と生きている自分を責めている方々。人間的な慰めや励ましは意味がないどころか、さらに状態を悪くすることもありうることを思う時、私たちクリスチャンは、何を言うことができるでしょう。そんな時私たちは、聖書にはこう書いてあります、神様は私たちにこう言っています、と伝えることにしています。会話の締めくくりには、心こめてお祈りさせていただくこともあります。

静かに静かに、みことばの種が蒔かれています。神様や聖書について知りたい方にとって、支援の場であるいっぽの中では、他の利用者に対しての遠慮があることも事実です。真理を求める方、救いを求める方が何にも煩わされることなく、その目的のために訪れることができる場所が必要。いっぽという

入口を通った方に、さらにその先に進むべき道があることをお知らせしたい。教会がほしい。時を経て、支援を継続しながらそのことを祈るクリスチャンが増えてきています。

閉じられた社会で、家庭や地域の文化的、歴史的背景から、世の中はこういうものだと言われて続けてきた方々に、違った価値観があることをクリスチャンの存在を通してお伝えできたらと思います。選びようがなかった人生に、自らが選び取ることのできる他の可能性があることをぜひお知らせしたいのです。国の内外から、小さな光が岩手の沿岸に集められ続けていることの意味を深く思いながら、これからもみんなでいっしょに、主のみこころにかなった祈りを積んでいきたいと願います。

私たちのために、ここでの働きのために、祈りや具体的な行いを通して、また、その存在をもって励まし続けてくださる教職者の諸先生、同労の兄弟姉妹に感謝します。

神様に栄光がありますように。

「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう。」 ローマ10：14



クリスマス礼拝@いっぽいっぽ・山田

～岩手県南沿岸部支援の法人設立に向けて～

「イエスはガラテヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病氣、あらゆるわずらいを直された。」マタイの福音書 4:23

この働きに目を向け、祈りとご支援を！！

【OMF 被災地支援終了、そして継続の道へ！】

2014年5月 OMF 被災地支援終了に伴い、今こそ日本の諸教会が働きを引き継ぐべく受け皿となる法人(非営利型の一般社団法人)を設立します。岩手沿岸部は、「伝道に対して閉ざされた地」と言われてきましたが、これまでの支援を通して、地が耕され、種が蒔かれ、芽吹いています。その芽が摘まれてしまうことのないように、現地、JECA 全国宣教協力委員会、JECA 東北、OMF、当プロジェクトによって祈りと話し合いが重ねられてきました。さらに、岩手県内の諸教会も加わっていただきました。今後法人が設立されましたら(4月初旬目標)、諸教会・教会員兄弟の皆様に「会費」というかたちで、支援金を募る予定であります。どうぞ覚えて共にお祈りください。



2011年

- 3月11日 東日本大震災
- 6月 OMF 岩手支援プロジェクト発足
- 9月 マギンティー師ご夫妻宮古入り
- 10月 本間兄弟現地入り
- 11月 北栄チーム現地視察

2012年

- 2月 宮古エリア支援プロジェクト発足
- 4月 高橋和義師ご夫妻釜石入り
- 6月 いっぽいっぽ・山田開所式
- 12月 いっぽいっぽ・山田にて礼拝一般公開

2013年

- 5月 小原姉山田入り(現地スタッフ)
- 7月 マギンティー師ご夫妻帰国
高橋師ヘリリーダーシップ移行
- 9月 礼拝に地域の方2名が初参加
- 11月 いっぽ利用者延べ1万人達成

2014年

- 4月 一般社団法人設立予定
- 5月 OMF 岩手支援プロジェクト終了

【支援と伝道、その両輪でこの地へ進み行く】

主キリストは、病を癒し、奇跡をもって人々の必要に応えつつ、伝道されました。そのように、私たちもキリストにならい「支援と伝道」がひとつとなって働く時こそ福音が前進すると思われています。ですから、この支援の継続は神の導きであり、私たちキリスト者へのチャレンジであると同時に、チャンスであり恵みの時であると信じています。

【具体的な経済の必要】

前述のとおり、4月の設立後に改めて献金を募りますが、今後の支援活動にかかる支出は、「いっぽいっぽ・山田」の維持・運営費と現地スタッフの人件費、そして「いっぽいっぽ釜石」の現地スタッフの人件費を加え、1320万円/年規模の経費が必要となります。この活動を継続する為には、多くの方々の祈りと協力が必要です。現在、二つの方法を考えております。ひとつは、賛助会員として1口5000円/年の会費によって、この活動を継続的に支援して下さる個人/団体の募集。もう一つは、随時献金によってその時々でサポートして下さる個人/団体を募ります。JECA 全国の諸教会、教会員の方々、また関係のある諸教会、海外の宣教団体や個人へも広くお願いをさせていただきます。

【この活動へのご理解、ご協力をお願い】

皆様には法人設立後に正式に活動内容と献金のご案内をさせていただきます。法人設立前であってもこの働きに祈りや捧げものをもって関わって下さる思いのある方は当プロジェクトまでメールもしくはお電話/FAXにて連絡先と氏名をお知らせください。改めて、こちらから正式なパンフレットを郵送させていただきます。

ippoiwate.com
ウェブサイト開設準備中

発行：宮古エリア支援プロジェクト (OMF 被災地支援の JECA 北海道地区窓口)

直通携帯 080-6068-2178 (松里佳代子) 北栄キリスト教会 011-761-2717 FAX011-761-2725

ホームページ <http://pj.hokuei.org> E-mail miyako@pj.hokuei.org

指定献金振込先 ゆうちょ銀行からのお振込の場合 記号 19000 番号 51040531 宮古エリア支援プロジェクト

ゆうちょ銀行以外からのお振込の場合 記号 908 普通 5104053 宮古エリア支援プロジェクト